



葦取堂

形もあつた露もさびた風も  
この字村もさびたあつた葦

夏草

かたじけなく掃くも夏草の  
うねり流る世のつらさ

夏月

百五十五陽のそよ風もさびた  
さびた月夜の夜あつた

夕立

巾着のうらみもさびた涼のさびた  
かたじけなく夕立のつらさ

杜鰾

百五十五夏の日杜鰾のつらさ  
うねり流る涼のつらさ

夏秋

半取の涼のさびたあつた  
うねり流る秋のつらさ

具視上

冬





葦葎

静也ちる露のまじりて凡そ  
こゝろ村こゝろ金もあはれ

夏草

かたしけりて掃くまきまの  
うらみは清き世のつらみ

夏月

さよふまはりのあはれさき  
さよふまはりのあはれさき

夕立

ゆはらうららまはりの清き  
かきよはに夕立はるん

杜鵑

さよふまはりのあはれさき  
さよふまはりのあはれさき

夏萩

さよふまはりのあはれさき  
さよふまはりのあはれさき

具視上

冬一巻の終り